

URWB向けCatalyst IWアクセスポイントでのスマートライセンスの管理

内容

はじめに

このドキュメントでは、URWBモードで動作する産業用ワイヤレスAPのスマートライセンス、アーキテクチャ、レベル、CLI設定、およびトラブルシューティングについて説明します。

ライセンスレベル：

機能セットとスループットを管理するには、次の3つのライセンスレベルがあります。

- 必須
- 利点
- プレミア

機能セットは、デバイスのモデルによって異なります。

アーキテクチャ

URWBネットワークライセンスは、URWBネットワークメッシュエンドによって設定、監視、および報告されます。ネットワークライセンスは、同じタイプのデバイスでプールされます。たとえば、メッシュエンドは、プレミアムライセンス階層で構成されたネットワーク上のIW9167Eデバイスの数を「IW9167URWBNetworkPremier」として報告します。同じネットワーク上に複数のデバイスタイプが存在する場合は、別々に報告されます。

固定インフラストラクチャ要件のみを持つ（流動性がない）ネットワークでは、モビリティスループットとMulti-Path Operation(MPO)は流動性にのみ適用されるため、Network Essentialsのみが必要です。Network Essentialsはデフォルトで含まれています。モビリティスループットの制限は、Fluidityモードのすべてのアクセスポイントに適用されます。

ネットワーク内のすべての無線デバイスは、メッシュエンドで設定されたネットワークライセンスレベルを使用します。異なるネットワークライセンス階層のネットワークに無線を配置することはできません。ゲートウェイデバイスのネットワークライセンス階層は、各ゲートウェイで個別に設定されます。ハイアベイラビリティ用にペアにされた2つのゲートウェイの場合、階層は同じように設定する必要があります。ローカルセグメント上のメッシュ端としてゲートウェイでレイヤ3の流動性を使用する場合、設定されたネットワークライセンスの階層は、他のセグメント間、およびグローバルゲートウェイ上で設定された階層によって異なります。

License usageは、過去7日間にネットワーク上で確認された（指定されたタイプの）一意のアク

セスポイントの数です。メッシュエンドでは、レポート要件を減らすために、指定された数のネットワークライセンスを予約できます。また、アクセスポイントの数は時間の経過とともに変化する可能性があります。この数値が大きい場合（実際に使用されている場合と予約済みの場合）は、ライセンスシステムに報告されます。

ハイアベイラビリティで2つのメッシュエンドを使用する導入では、各メッシュエンドがライセンスの使用状況をHAステータス（アクティブまたはスタンバイ）とともにライセンスシステムに個別に報告します。ライセンスシステムは、アクティブなメッシュエンドがコンプライアンスの目的でライセンスを使用しているだけであると見なします。アクセスポイント（通常はFluidity Vehicleモード）が7日ごとよりも頻繁にメッシュ端の間を移動する導入では、アクセスポイントの各メッシュ端の使用状況がレポートされます。コンプライアンスを維持するには、追加のネットワークライセンスを購入する必要があります。

CLIでの設定

次のCLIコマンドを使用して、ライセンスタイプを設定します。

```
Device# configure license iw-level
```

次のCLIコマンドを使用して、スマートライセンスのデバイス番号を設定します。

```
Device# configure license iw-network seats
```

IOT固有のシートでは、モビリティシナリオのデバイスリストがキャッシュされ、デバイス数は無線の数に予約されます。これは、管理対象ネットワーク内の予想される最大デバイス数です。

CLI設定：オンライン導入用

このオプションでは、デバイスは直接またはプロキシ経由でクラウドに接続する必要があります。

ステップ 1	CLIから、無線のトランスポートモードをスマートトランスポートに設定します。 <pre>Device# license smart transport smart</pre>
ステップ 2	Cisco Smart Software Manager(CSSM)と通信するためのスマートライセンスURLを設定します。

	Device# license smart url smart https://smartreceiver.cisco.com/licservice/license
ステップ 3	(オプション) ネットワークにプロキシがある場合は、ライセンス管理に特定のプロキシサーバを使用するようにスマートライセンスシステムを設定します。 Device# license smart proxy address <サーバIP>
ステップ 4	(オプション) ライセンスプロキシポートを設定し、設定されたプロキシサーバで使用するスマートライセンスシステムを設定します。 Device# license smart proxy port <ポート番号>
ステップ 5	ローカルに保存されたスマートライセンスのIDトークンを信頼するようにデバイスを設定します。 Device# license smart trust idtoken <id_token_generated_from_CSSM> local
ステップ 6	(オプション) デバイスがライセンスの使用状況をライセンスサーバに報告する間隔を設定します。 Device#ライセンスのスマートな使用間隔50

CLI設定：オフライン導入用

このオプションでは、デバイスはCisco Smart Software Manager(CSSM)への外部アクセスを必要としません。

手順

ステップ 1	ライセンスのスマートトランスポート機能を無効にするようにを設定します。 Device# license smart transport off (デバイス番号ライセンスのスマートトランスポートオフ)
ステップ 2	ローカルに保存されたスマートライセンスのIDトークンを信頼するようにデバイスを設定します。 Device# license smart trust idtoken <CSSMから取得したトークン> local
ステップ 3	tftp-linkコマンドを設定して、スマートライセンスシステムのすべてのライセンス使用状況データを保存します。リソース使用率の測定レポート (RUMレポート) は、ポリシーで指定されたレポート要件を満たすライセンス使用状況レポートです。RUMレポ

	<p>ートは、製品インスタンスによって生成され、CSSMによって使用されます。</p> <pre>Device# license smart save usage all tftp://<local-tftp-server>/rum_report_all.xml</pre>
ステップ 4	<p>RUM確認応答 (RUM ACKまたはACK) は、CSSMからの応答で、RUMレポートのステータスに関する情報を提供します。製品インスタンスでレポートのACKが使用可能になると、対応するRUMレポートが不要になり、削除できることを示します。ライセンス情報をスマートライセンスシステムにインポートするには、license smart import linkコマンドを設定します。</p> <pre>Device# license smart import tftp://<local-tftp-server>//rum_report_ack.xml</pre>

トラブルシューティング

便利なコマンド

```
show license summary
show license iw seats
show license tech support
show license status
show license type
show license usage count
show license tech events
show license udi
show logging | inc SMART
```

スマートライセンスのリセット

アクセスポイントのスマートライセンス設定を工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、「license smart factory reset」コマンドを使用します。

```
Device# license smart factory reset
```

また、CSSMとの通信を正しく確立するために、デバイスが正しいNTPサーバと同期されている

かどうかを確認します。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。